

美方郡西部の ウスバシロチョウの新産地と知見

黒井和之

但馬地域のウスバシロチョウの分布については、広畑・近藤（1989）によって、兵庫県下の分布資料の中でその概要がまとめられている。本地域では119ヵ所の既産地があげられており、中央部を南北に流れる円山川以西では、その生息地は海岸部や一部の地域を除けば、点としてではあるが連続しているようである。しかし、分布域の全容が明らかになるには十分なものではないように思う。

但馬の中でも温泉町・浜坂町は北西部に位置し、扇ノ山を源にした岸田川流域にあり、美方郡の中でも西にあるため、略して美西と呼ばれている。

広畑・近藤（1989）では、この美西での既産地は16ヵ所をあげている。私はこれまでの調査で新たに10ヵ所の新産地を記録しているので、データをつけて報告しておきたい。また、その産地において若干の知見を得ているので併せて報告したい。

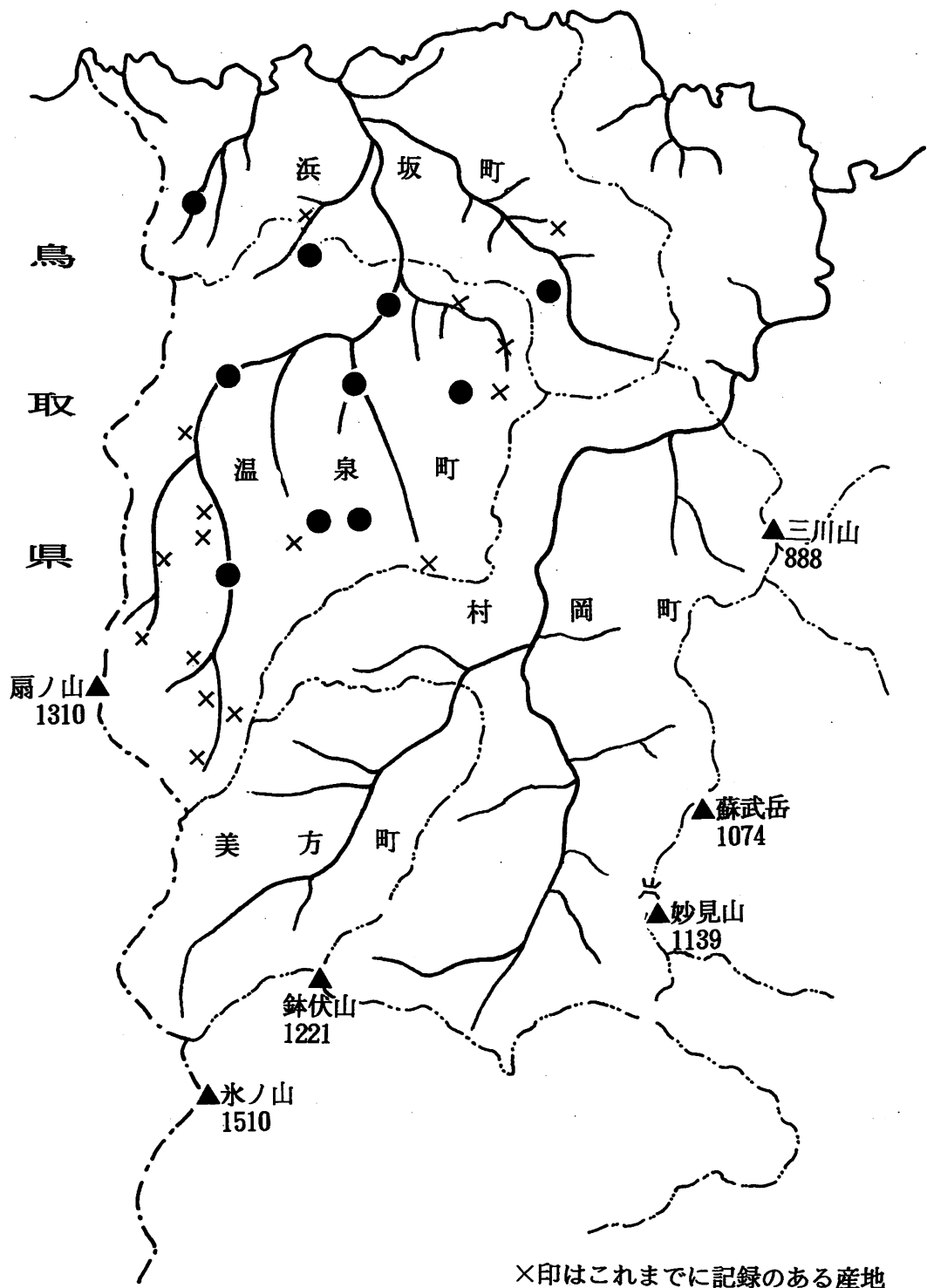
〈知見〉

新産地である諸寄と既産地の田君谷で、背丈30cmほどにのびた灌木・ススキ・スゲなどの混じる草地内で採集していたとき、突然、本種の姿が消えた。どこに行ったんだろうと周りを見渡すが姿がない。本種の飛翔はタテハチョウ科のように速くないのでおかしいと思い、飛んでいた周辺のブッシュに目をやると、その中から突然本種が現れた。その個体を採集してみると雌であった。その個体は、産卵のために幼虫の食草であるムラサキケマンを探して、ブッシュ内に潜りこんでいたと考えられる。

近年、下草を除去することが稀になり、本種の生態に変化が生じているのではないだろうか。これらの点を整理してみると、もうひとつ気になることがある。温泉町伊角では、数年前の生息地が直線距離にして数百mほど移動しているのを観察している。本種の個体群の移動に関してはまだ充分な観察をしていないが、これまでに得たかぎりでは個体群はある程度密集していて、それらが年によっては条件のよい場所のムラサキケマンを求めて移動を行っているように思われる。

美方郡西部のウスバシロチョウの新産地及び既産地の分布図

日本海



×印はこれまでに記録のある産地

●印はこれまでに記録のない新産地

しかし、まだそれらのことを実証するには満足な観察結果を得ていないので、今後の課題として残しておきたい。

〈データ〉

1986-V-18	1 ♂	兵庫県温泉町井土
1989-V-3	1 ex. 目撃 (初見)	鐘尾
V-4	1 ex. 目撃 (初見)	井土
V-4	2 exs. 目撃 (初見)	湯
1991-V-19	5 ♂ 2 ♀	兵庫県浜坂町諸寄 (奥諸寄)
V-19	3 ♂	久斗山
V-26	3 ♂	温泉町花口
V-19	3 exs. 目撃	多子
V-19	2 exs. 目撃	丹土
V-15	1 ♂	後山
V-19	3 ♂	後山
V-26	1 ♂	高山

参考文献

広畑政己・近藤伸一 (1989) 兵庫県産蝶類分布資料 (5), ひろおび 8:1-8.